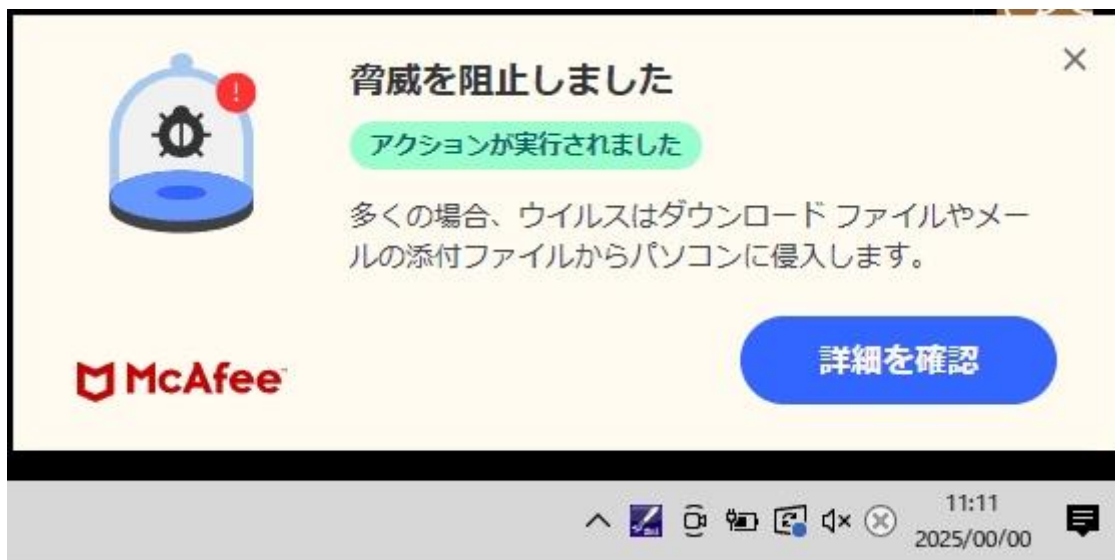


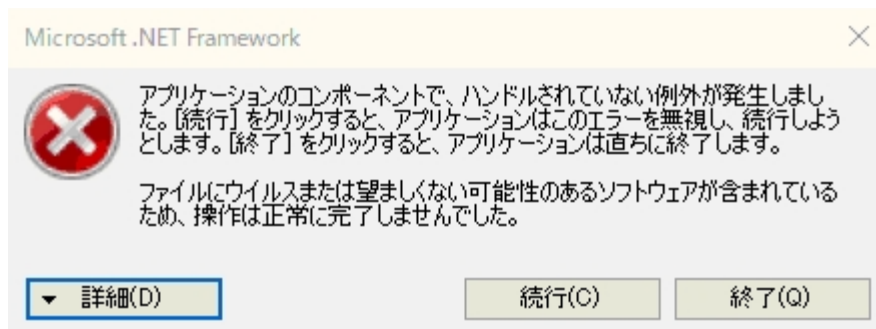
マカフィーリブセーフに自動更新が阻止された場合の対処方法

（現象）

弊社システムが自動更新を行うと、マカフィーリブセーフが誤検知によって、自動更新プログラムファイルを隔離した場合、以下メッセージを表示します。



弊社システムは、自動更新プログラムファイルが消えてしまうと、処理を行うことができず、以下のエラーが発生します。



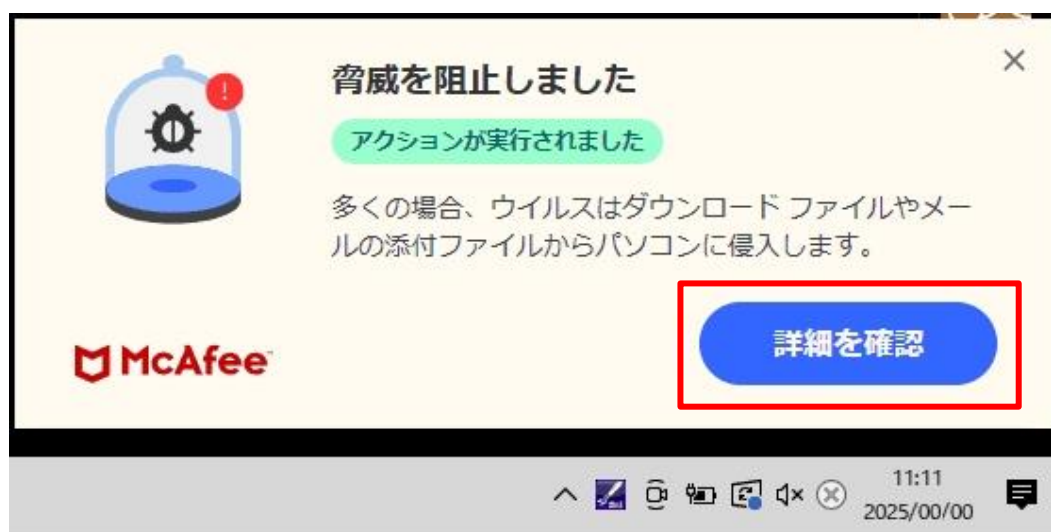
上記の現象の対処方法として、まず隔離されたファイルの復元を行います。さらに、次回以降自動更新プログラムファイルが隔離されないように、そのファイルを除外設定に追加します。

操作手順は、次ページ以降を参照ください。

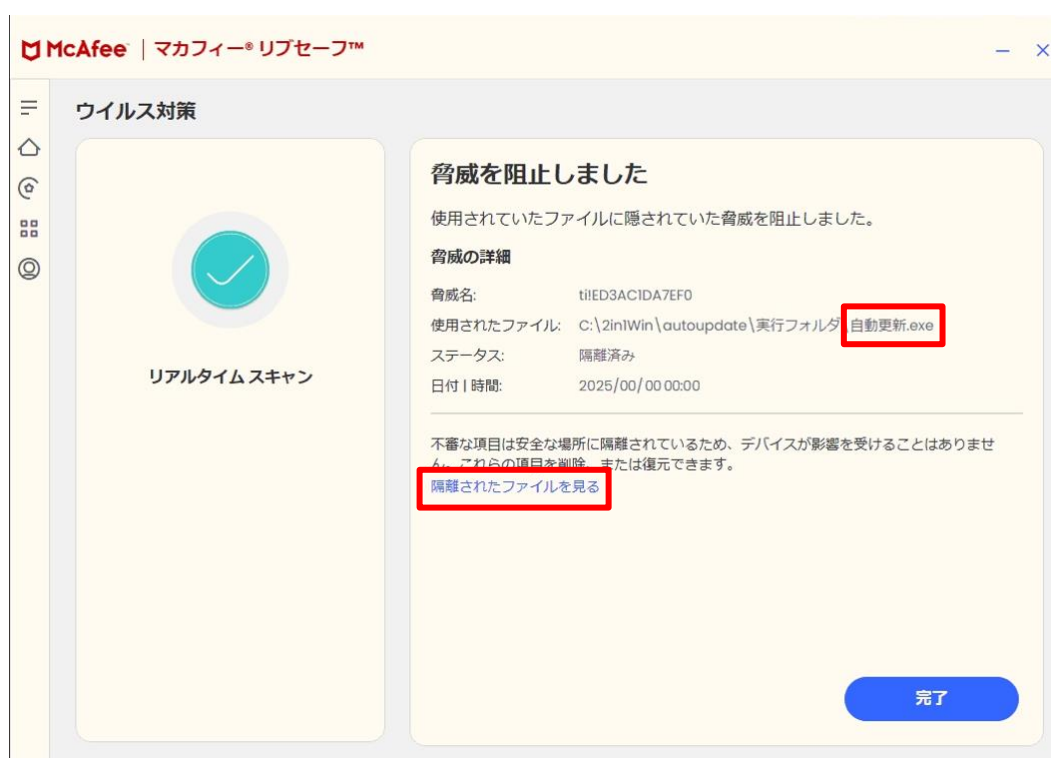
対処方法 自動更新プログラムの復元及び除外設定の追加

手順1 自動更新プログラムファイル（自動更新.exe）の復元

通知「脅威を阻止しました」が表示されている場合は、[詳細を確認] をクリックします。



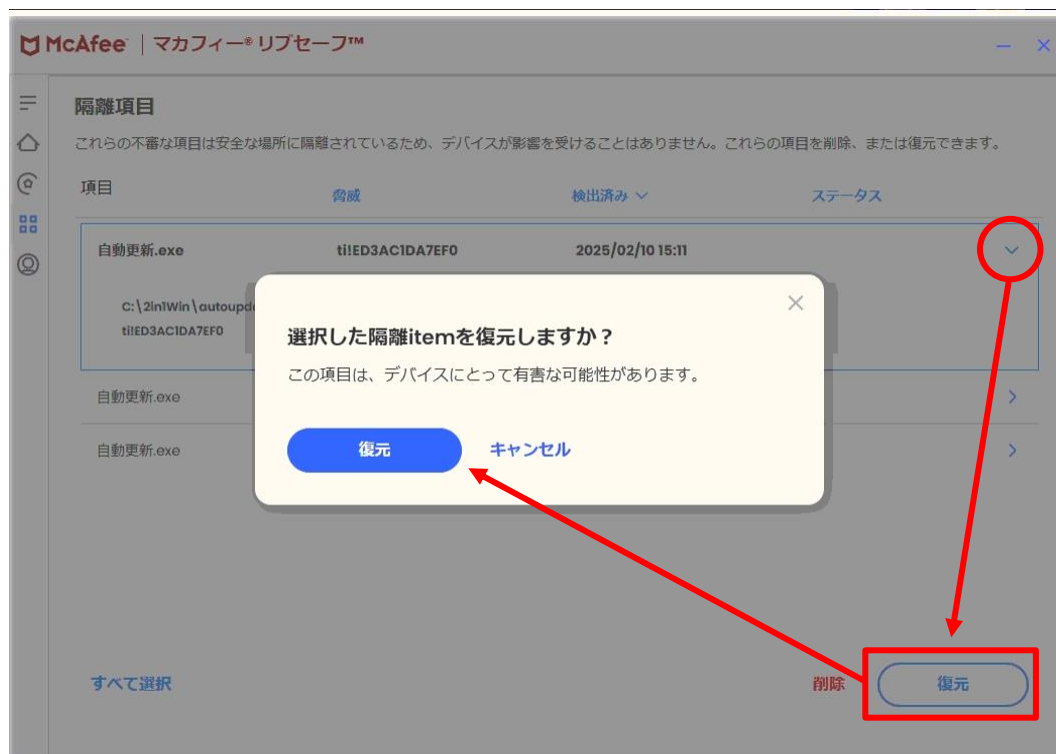
隔離されたファイルが「自動更新.exe」である場合は「隔離されたファイルを見る」をクリックします。



前ページの「脅威を阻止しました」通知が消えている場合は、左のメニューから「隔離項目」を選択して、隔離されたファイルの一覧を表示してください。



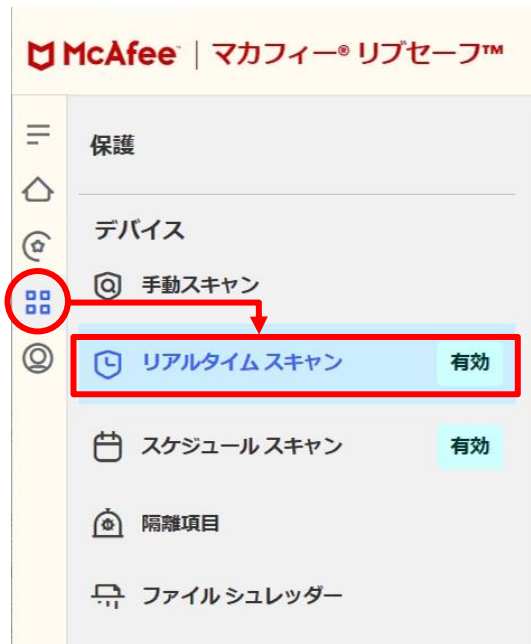
隔離されたファイルの一覧が表示されたら、「自動更新.exe」の右端をクリックして、[復元] クリックします。確認メッセージが表示されたら、さらに [復元] をクリックします。



復元作業は以上です。

手順2 自動更新プログラムファイル（自動更新.exe）を除外設定に追加

左のメニューから「リアルタイムスキャン」を選択します。



右下の「ファイルの追加」をクリックして、「自動更新.exe」を除外するファイルに追加します。

インストール先フォルダがデフォルトの「C:\¥2inlWin」である場合、追加するファイルは、

「C:\¥2inlWin¥autoupdate¥実行フォルダ¥自動更新.exe」です。

「C:\¥2inlWin¥autoupdate¥自動更新.exe」ではありませんので、ご注意ください。インストール先フォルダがデフォルトとは異なる場合は、環境に合わせて読み替えてください。



以上です。